

技能検定制度の見直しに向けたアンケート調査結果の概要

1 調査の概要について

(1) 業界団体調査

a. 調査対象

中央職業能力開発協会において「技能検定協力団体」となっている業界団体(209 団体)

b. 調査時期及び方法

平成 20 年 9 月

調査票を中央職業能力開発協会を經由して送付した。なお、複数の職種について検定協力団体となっている場合は、5 職種までの場合は協力している全職種、5 職種を超える場合は厚生労働省が指定した 5 職種について回答を要請した。

c. 回収数 192 件 (113 職種)

※ 調査票を送付した 209 団体のうち、149 団体より回答があった。

※ 件数については、1 団体から複数職種分の回答を得た場合は別カウントとしている。

(2) 技能検定受検者調査

a. 調査対象

平成 20 年度前期技能検定学科試験を受験した者(サンプル調査)

b. 調査時期及び方法

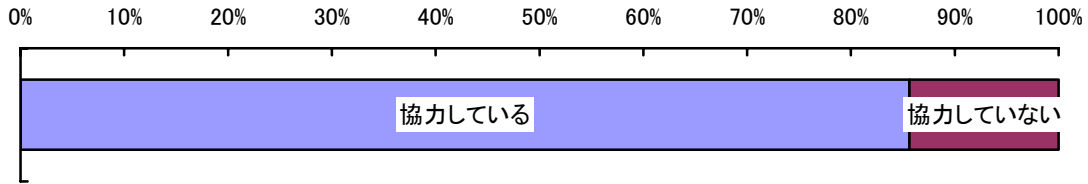
- ・平成 20 年 7 月 27 日、8 月 24 日、同 31 日、9 月 3 日、同 7 日
- ・調査票を都道府県能力開発主管課に送付し、都道府県ごとに指定した日に実施される技能検定学科試験の際に受験者に配布し、試験終了後に回収した。
- ・なお、配布数は 7 月 27 日分(主として 3 級試験)は 20 部/県、その他は各県 50 部/県の合計 2,050 部を想定していたが、都道府県の判断で増刷配布したケースもあるため、回収できた全件を集計対象とした。

c. 回収数 2,886 件 (44 都道府県)

2 業界団体調査結果の概要

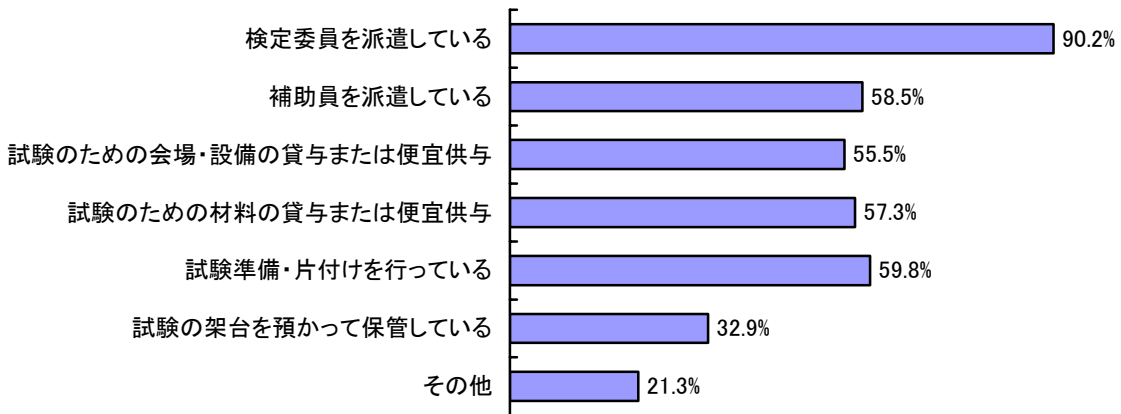
(1) 実技試験への協力について

回答数のうち 86%が「協力している」と回答した。



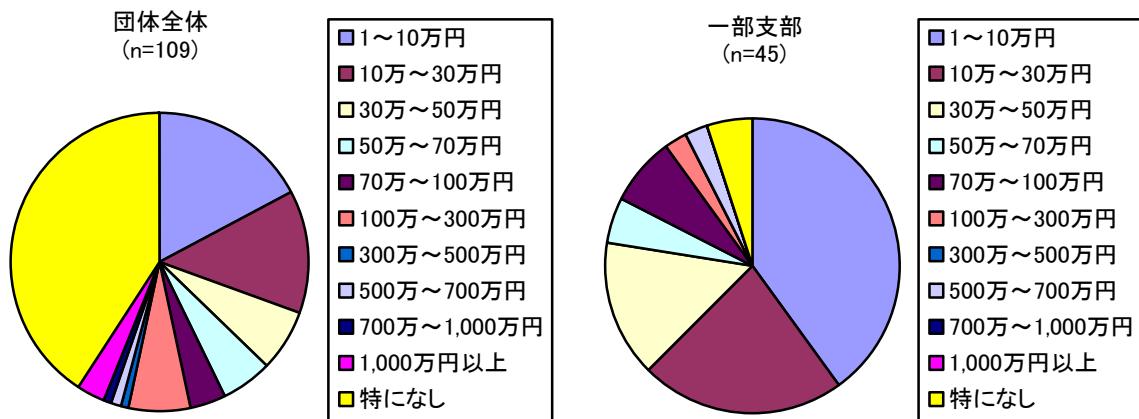
(2) 実技試験への協力内容について

(1)で「協力している」と回答した中では、「検定委員の派遣」が9割を超えたほか、他の項目でも50%代後半の高い割合を示した。「試験の架台」は必要のない職種もあるため、割合は低めに出ている。



(3) 実技試験実施の協力に当たり負担した費用(年間)

実技試験実施の協力に当たり団体が負担した費用は、「1～10万円」と「10～30万円」の回答が多かったが、「1,000万円以上」との回答もあった。今回調査では人の派遣や便宜供与も可能であれば金額に換算して欲しい旨要請したが、調査期間が短かったため、回答の内容に濃淡が生じたことは否めない。

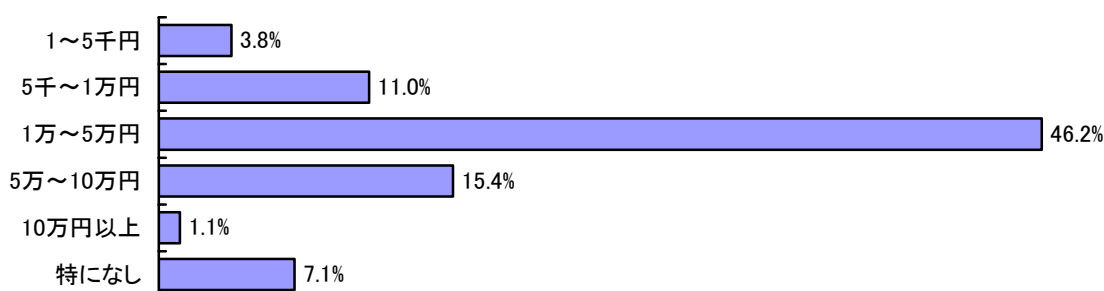


(4) 団体の関係職種が技能検定として存在するメリット

自由記入形式で回答を求めたところ、①技能者の技能水準を客観評価できる、②国家検定合格で自信と誇りにつながる、③職業の知名度が上がり、団体のまとまりが良くなる、④知識と技能の両方が身に付く、⑤技能水準の向上が製品品質の安定化につながる、等をメリットとして掲げる団体が多かった。一方、合格者の社会的地位の向上や経済的な優遇措置のためには、もっと PR が必要との意見も見られた。(個別の回答については、別紙 1 を参照のこと。)

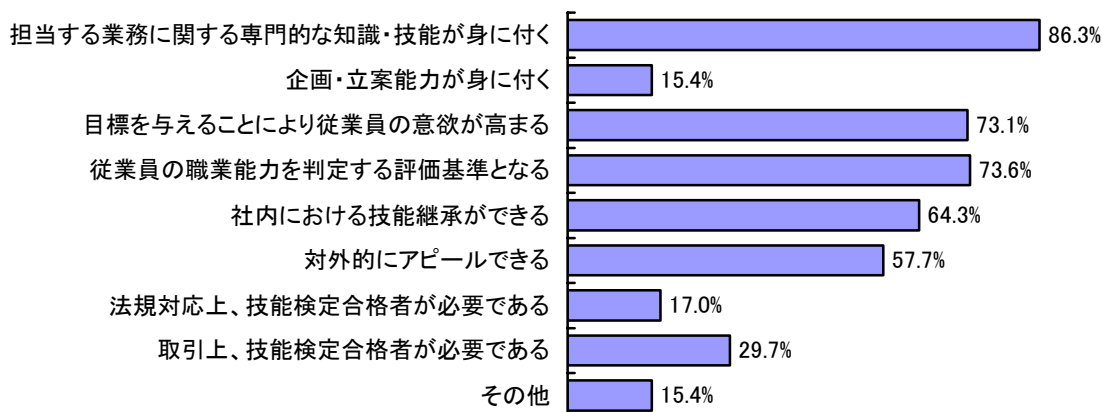
(5) 団体の傘下企業において従業員の技能検定受検のために支払っても良いと考えている費用

半数近くが「1万円～5万円」と回答した。



(6) 従業員が技能検定を受検(または合格)した場合の企業のメリット

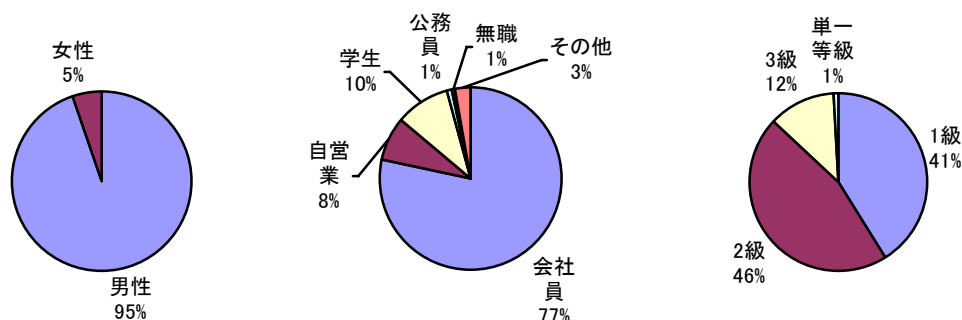
「担当業務に関する専門知識・技能が身に付く」が最多で、「従業員の能力評価基準となる」「従業員の意欲が高まる」「技能継承が出来る」も6割以上が該当ありと回答した。



3 技能検定受検者調査結果の概要

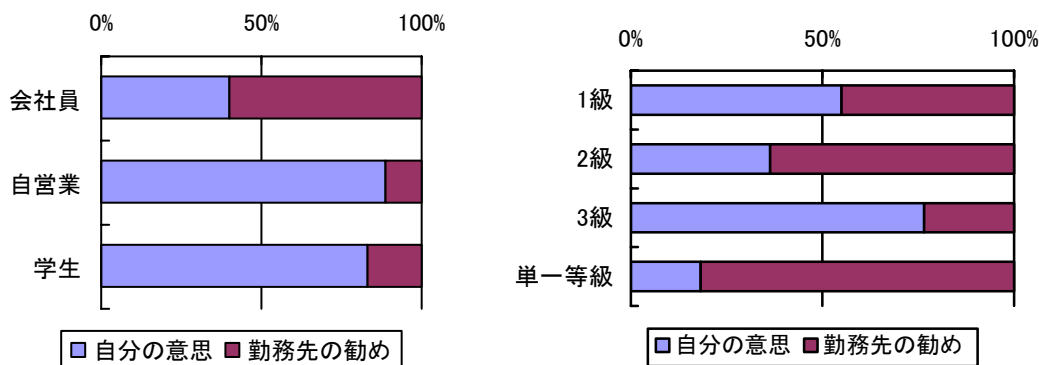
(1) 回答者のプロフィール

男女別では男性が95%を占め、受検者の平均年齢は31.4歳であった。
 職業別では会社員が77%を占め、学生(10%)と自営業(8%)がこれに続く。
 等級別では、1級と2級で全体の9割近くを占め、単一等級の受検者が僅かであった。
 47職種から回答があり(15%は職種無記入)、機械加工(387件)、仕上げ(290件)、塗装(261件)、金属熱処理(219件)、造園(176件)、電気機器組立て(133件)等からの回答が多かった。



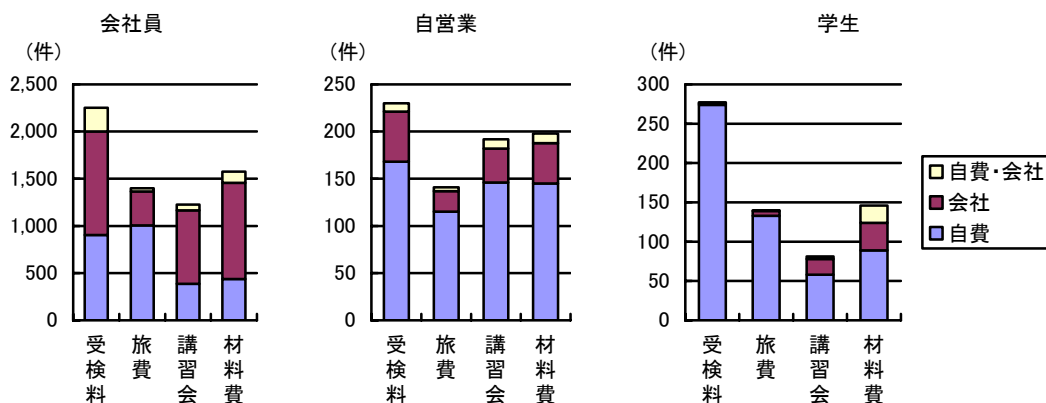
(2) 受検動機

職業別で見ると会社員は「勤務先の勧め」の割合が高い。等級別では3級において「自分の意思」の割合が高く、受検生の多くを学生が占めるためと思われる。



(3) 受検にかかった費用及びその負担方法

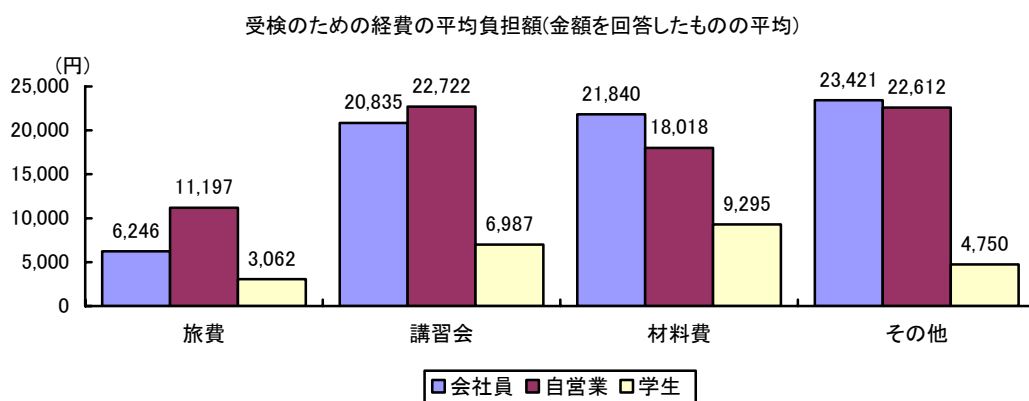
会社員は、受検料、講習会及び材料費の3項目で会社負担の割合が自費負担よりも高く、業務の一環として技能検定を受検する傾向が見られる。
 自営業は、会社員や学生に比較すると、講習会や材料費を支弁する割合が高い。
 学生は、講習会や材料費で「会社」の回答が一定数見られるが、授業の一環として学校で経費を負担しているものと思われる。



(4) 受検のためにかかった費用の具体額

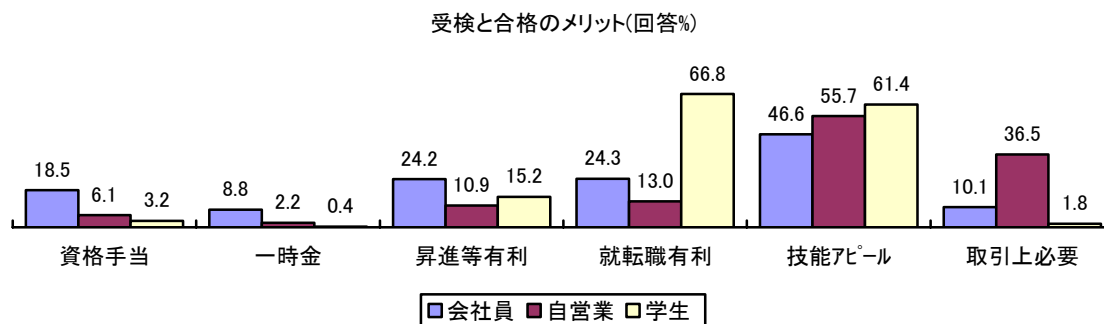
受検のためにかかった費用の具体額の平均値は、旅費で6,554円、講習会で22,302円、材料費で20,693円、その他で22,466円であった。いずれの項目も、学生の平均額は会社員や自営業に比べてかなり低水準であった。

「その他」としては、学習のためのテキスト類や、受検に必要な工具(道具)類などがあげられた。



(5) 受検と合格のメリット

受検と合格のメリットについて、「あり」と答えた者の割合を見ると、「技能レベルをアピールできる」が最多で、いずれの職業も高い数値を示した。「就職・転職に有利」は学生において割合が高く、「取引上の必要」は自営業において割合が高かった。なお、「資格手当」の平均額は5,945円、「一時金」の平均額は25,328円であった。



(6) 他職種または他試験の受検予定／受検経験

3 金属加工関係、及び5 電気・精密機械器具関係において、他職種の技能検定受検として多くの職種があげられた。

また、他の資格試験としては、危険物取扱者試験や施工管理技術検定が多くの職種で見られたほか、労働安全衛生関連の資格も多く見られた。(詳細は別紙2を参照のこと。)

(7) 技能検定制度をよりよいものとするための意見

技能検定試験に関しては、「受検料の軽減(特に高校生に対する負担の一層の軽減)」、「年に複数回の実施」、「受検会場を各地に設ける」、「実技試験実施時期の変更(真夏では暑すぎる)」、「合否内容の詳細の開示」など、

受検準備に関しては、「参考書、教科書の充実」、「通信講座の実施」、「受検準備講習会に係る情報の集約」など、

技能検定制度そのものに関しては、「制度の存在をもっとアピールし、認知度を上げる」、「資格を持っていることによるメリットをわかりやすく示す」などの意見が寄せられた。

(別紙 1) 団体の関連職種が技能検定として存在するメリット

1 建設関係

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
造園	<p>技能レベルの一定の基準となる。</p> <p>-----</p> <p>技能の継承をはかれる。技能者の育成、若手技能者の入職促進、定着に大きな効果がある。</p>
建築板金	<p>職業生涯プランとして具体的な目標・指針となり、技能、技術の向上、あるいは後継者育成の面からも大きなメリットがあると思う。</p>
冷凍空調和機器施工	<p>業界への存在感。冷凍空調職種についてはリーダー的立場にあること。会員の技能士の数が把握できる。会員にプロとして会社運営を指導できる。職業能力開発協会と太いパイプでつながっている。</p> <p>技能者の意識高揚と地位向上また企業としての評価も高いものがあり、技能者に対して給料に手当として付加している。企業として知識、技能、経験等ハイレベルな技術者としてあり、企業信頼(仕事の失敗がなく高技術)の裏付けとなっている。すなわち、この検定制度があればこそ個人も企業も業績を残せる原点であると考えます。この検定に積極的な企業は前向きな革新的な仕事、業績を残している。県の評価もあり、メリット大。工業会の存在価値、メリットもここにあり、会員脱落の歯止め効果あり。</p> <p>技能士資格所有者による信用度及び経審点付加等でメリット及びPRに役立っている。受験準備講習会も含めて、当組合の主要な事業と考えている。本職種の1・2・3級受験者は今後も応募者があると思われる。</p> <p>現在、技能士制度が有効活用されていない現状にあるが、近年、入札等における経営審査に付加される制度になっており、技能の向上のための制度として有用である。</p> <p>設備工事業を主たる業務としている当会会員企業にとつて、この技能検定実技試験は必要欠くべからずと判断し、会員へのメリットを供給すべく会員への重要事項として予算を計上し、補助金の不足分を補填している。技能検定試験を基に専門知識、技能を向上することが可能。</p> <p>技能士を習得することにより、社員の技術向上はもちろん会社にとって大きなメリットになる。お客様への安心感を与える。各市町村(県を含む)公共機関への技術者リスト提供。社内の能力査定、それに伴う社員間の技術向上心の育成。</p> <p>冷凍空調職種確立の一助。当工業会の存在意義の一助。メリットではないが、会員の方を育成することによるレベルの向上に重点を置く。技術水準の維持、向上、コンプライアンス。</p> <p>会員で設備工事関係、サービス業を営んでいる事業所にとつては、冷媒配管の溶接等を行う行為においては、必要最低限の資格として有効である。また入札物件の関係でも経営審査事項において技術評価として加算されていることも一つのメリットである。事業所の対外評価としても本技能士を有することはよい評価を受けるためにも有効である。</p> <p>国家試験としては当会の唯一の公的資格である。1、2級の技能検定合格者はそれぞれの業界において「技能士」として社会的にも周知されている。職業能力開発協会とのコミュニケーションがよくなり、他の目的で施設を利用する場合、利用しやすくなった。</p> <p>冷凍空調専門業にとつて「区別化に必須」と捉えている(個別発注の一大ポイントに出来る)。職種別「冷凍空調設備技能士会」を組織(1級主体に加入者200名を目標、現在154名)して県等自治体に「技能士の活用」について要請活動を行っている。結果、松山市で冷凍空調設備の入札時、技能士常用保有(前6箇月以上)企業が条件化された。会員企業に「技能士の保有をPR」し、「技術力・企業信用」等を醸成するよう活動を推進中である。</p> <p>冷凍空調業界として一番必要要件である。技能士の現場常駐(機械設備工事)のため、1級冷凍空調和機器施工技能士の確保が必要。</p>
石材施工	<p>当工業会は建築石材の石張りでの技能検定を実施しているが、安全第一施工を目指す上で、必要不可欠な検定試験と考える。また、国交省では施工管理技能士も実施されているが、現場単位では技能士の常駐が望まれている。国内の石工全体が技能士の資格を目指せるように資格の重要性をアピールしなければならないだろう。例えば資格による賃金格差や無資格者による施工不可という指導が必要ではないでしょうか。</p> <p>-----</p> <p>石材施工では普段の仕事では加工では機械化が進み、現場では昔ながらの手仕事分野が多く残り、ギャップを感じる。機械化の時代にあっても仕事の原点は手仕事であることを技能検定を通して知る事が大事と考える。石張りについては建築物の一級技能士常駐制度が各県により統一されていないように思う。仕事の発注においても技能士資格を重視して位置づければと感じている。技能士資格を生かせる環境になると良い。</p> <p>-----</p> <p>石積み技能者の高齢化による後継者不足の改善。コンクリート施工工事の見直しによって自然材料を使う工事が増加する。技能検定で技能者の技量が具体化される。造園業界として仕事の領域が広がる。</p>
建築大工	<p>国家資格としてその職種が認められているので社会的な認知につながる。若年者が資格取得に向けて研鑽し、一つの大きな目標となる。</p> <p>-----</p> <p>建設不況に加え、技能士のメリットがなく、若年技能者の育成に障害となっている。</p>
枠組壁建築	<p>「枠組壁建築」に関する技能は、我が国に伝統的であったものではないため、検定合格の有無が従事者(技能者)の技能レベルを計るほぼ唯一のモノサシとなっている。(ただ、住宅建築上の必要資格(建築基準上や民間の受発注上の)としては位置づけられていないため、業界全体でオーソライズするものには、必ずしもなっていない。)</p>

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
かわらぶき	古来からの技術、長年の経験により蓄積された能力の技能を評価する資格としてとらえている。かわらぶきの社会一般の評価を高め、業界としての技能と地位の向上を図れる。
とび	鳶・土工基幹技能者受講資格に1級技能士がなっている。技能士を現場で活動する運動をしてほしい。
左官	左官技能士の資格取得として唯一の手段だから技能の継承。職人の勤労意欲、昇進意欲の助長。資格取得により誇りを持てる。受検申し込みの漏れが少なくなる。技能講習会が地区ごとに開催により受検生が平等に訓練できその上経費が安くなる。資格の取得を目指すスキルアップへの行動と訓練の向上がある。資格を取得することにより技能に対する自信が生まれ、対外的にアピールすることができる。専門職種が設営することにより日程、経費が抑えられる。専門職種が検定委員を行うことにより公平かつ確かな点数評価を行うことができる。業界からの受験者が参加しやすい。若年者が自己の技能レベル向上のための研鑽手段となっている。技能継承の手段となっている。技能者集団(団体)として社会への存在感をアピールできている。
れんが積み	存在意義を内外にPRする意味でぜひとも必要です。 ----- 技能技術の継承及びレベルアップ。施工品質の確保。れんが工の社会的信用、地位の向上。若手技能工の育成。
築炉	耐火物を使った工業炉の築炉・修理の技術・技能の伝承。資格取得の目的から、知識・技能を体得する機会が得られる。仕事に対する意欲が高まる。 など ----- 公の評準値なので、公示発注時における技量判断となっている。また、ユーザからの信頼も得られる。築炉工減少傾向の歯止めの一助となっている。築炉工自身の励みでもあり、技能UPにつながる。
ブロック建築	安全で信頼のおける技能士は業界にとって最重要であり、施工者の育成は不可欠な問題である。中小企業団体としては国に技能検定を実施していただくのは自前で育てるよりも費用がかからず、何よりも信頼が得られ、さらに価値観も得られる。
エーエルシーパネル施工	当業界にとって以下のメリットがあると考えている。1. 施工品質の安定、向上。2. エーエルシー施工者の地位の向上。3. エーエルシー施工者の仕事に対する誇りや意欲の向上。
タイル張り	若手技能者の資格取得による業界のレベルアップ。後継者の育成。技能士の資格取得による社会的信頼と地位の向上。
配管	建設現場において技能者の果たす役割は、きわめて重要である。作業管理や現場管理技術者との連絡・調整等を行い、部下の指導育成に当たる上級職長である「配管基幹技能者」を育成しているが、その受験資格を1級技能士(建築配管)としている。また、実技試験を実施している重要な資格である。3級検定は、在学生でも受検でき大きな目標となり、若年労働者の確保にもつながるので試験会場、受検料などの優遇を要望する。 ----- 管工事業を主業とする業団体であり、技能者の確保・育成を計ることを目的。
厨房設備施工	厨房設備施工業務に従事する者の基礎的知識や技術の向上に寄与するとともに、専門的知識及び技術を習得する機会になっている。
型枠施工	技能士として国家検定を受けることは、技能者として自信となり業務の遂行に役立つことになる。技術的に認定されていることは、職員としてステータスとなり、仕事の仕上がりにも反映されてくる。
鉄筋施工	若手技能者の育成。仕事の一環として対応。鉄筋施工に対する認識の公用(受験者、受検予備軍)。資格を持つことにより、本人に自覚、仕事への意欲、会社にとっても有益。有資格者の雇用が対外的アピールとなる。取引上も必要となることあり。従業員の技能研鑽の励みでもある。品質管理・技能向上・仕事の出来に結びつく。技能の向上・職人のモチベーション向上に貢献。作業員に鉄筋工事が何であるかを教えることが大きい。資格取得が社会的地位・収入につながるメリットが少ない。公共・民間を問わず設計図書に(技能士)の必要性を明記することにより、価値が向上。従業員の意欲が高まり、能力判定の基準となる。技能検定は今年で39年目。技能労働者の社会的経済的地位の向上に貢献する意義を前面に。検定は国家試験、職人として一定の技能の取得を証するものであり評価しやすい。まずは2級、そして1級と知識・実技を自分のものに出来る。働く技能者の技能と地位の向上を図ることが出来る。ものつくりの重要性・技能承継のため必要不可欠。組合主体での実施・協力で各組合員の意識の高揚も期待できる。入職希望学卒者等へのアピール。鉄筋技能職としての地位向上になっている。取引上の必要性。国家資格として技能の向上に大いに貢献している
コンクリート圧送施工	コンクリート圧送工事作業従事者の技能と地位の向上

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
防水施工	<p>専門工事業として、社会的に認知されること。(協力して技能検定を実施することにより)業界内での交流、実施組織等の整備が進み、業界として一体感、まとまりが生まれること。技能者の能力に対して、公的な評価が与えられること。</p> <p>当工業会は、シーリング材製造メーカーの団体です。関連団体のシーリング材工事業団体への協力をしています。よって直接的な施工技能者を傘下には持っていません。当工業会は技能よりシーリング材施工管理に重きを置いており、約38年間シーリング管理士の育成をしています。なお関連団体のシーリング材工事業団体はシーリング技能士2級、2級の育成をしており約2万人が資格を取得していますが、残念ながら建築現場でのこの技能士取得者の施工が徹底されていません。公共工事では常駐が義務づけられているはずで、無免許で運転しているのと同じで、ぜひ常駐を義務づけてください。</p>
樹脂接着剤注入施工	会社の加点に関係するところ
内装仕上げ施工	<p>建材は標準通り施工されて初めて性能が確保されるものであり、施工技能はその重要な要因である。その意味で検定をキーに技能の研鑽をはかることは必要なことと考えている。</p> <p>技能士の確保。社員の定着(離職の減少)率UP。技術向上。取引上のアピール</p>
熱絶縁施工	<p>熱絶縁施工(吹付け硬質ウレタンフォーム断熱工事)は、一般建築物の結露防止工事、冷凍・冷蔵倉庫の防熱工事等、省エネルギー対策としてのニーズも高く幅広く社会に貢献している。原料が化学製品で、発熱反応で製品を形成するため基礎化学の知識及びそれに伴う技能が要求される。技能士としての資格は、専門的な知識・技能が身に付き、技能継承もでき、何より正しく省エネルギーに貢献できることができる。</p> <p>専門技能者の確保・育成</p> <p>信頼の確保: 一定水準以上の技能を有することが検定機関により試験され、品質の保証と安定につながる。 人材の育成: 検定があることにより、一つの目標ができ、それに向かって自己修練することができる。また、会社としても定められた目標に向かって訓練させることができる。対外的には1級技能検定取得免許は仕事上有利となる。また、社内的には先輩・後輩の指導を通じての人的交流の機会となる。 社会的責任: 安全衛生に関することや、関連法令を学ぶことで、なぜそれを行わなければならないかがはっきり判り、最低限の社会的責任を果たすことにつながる。 差別化: 技能検定に取り組むことにより、熱絶縁に関する最低限に必要な技術・技能を持つことができる。アウトサイダーとの差別化が図れる。また、技能検定合格証は協会の技能職を表彰する際の絶対必要要件の一つとなる。技能の伝承: 技能検定の練習を行うことにより、先輩からアドバイスを受け継ぎ、技能の伝承につながる。 その他: 若い業界関係者に対し技能検定の実施が協会をPRする機会となる。建設業の県知事登録、大臣登録を申請する際、熱絶縁1級、2級合格の免許があると許可が下りやすい。協会の中堅の技能検定委員と若手補助員との人的交流の機会となる。</p>
カーテンウォール施工	カーテンウォール施工は、建物の性能を担保する上で、専門的知識と技術を必要とするため、取り付けの責任者がカーテンウォール施工の技能検定合格でないと任せることができない。技能検定合格者であれば、元請けの信頼を得ることができる。特に、我々の業界は、技能者を社員として抱えているところは少なく、取り付け会社として独立した協力会社に依存しているため、技術の伝承と向上のためにも技能検定を必要としています。
サッシ施工	建築現場に投入されるサッシ取付施工員について、現場責任者は建築物全体の施工品質保持のため、一定数以上1級技能士の確保を求める。一方、サッシ取り付け作業はサッシメーカーによる責任施工の場合が多く、メーカーの信用向上のため、信頼できる技能士を派遣する。
自動ドア施工	エスカレーター、エレベーターの業務においては、法的有資格者という条件下で従事しておりますが、自動ドアの業務の場合はそのような条件はありません。そのような環境下で国家検定である技能検定有資格者はある一定以上の技能を有し、地位を確保でき、さらには社会的ニーズに的確に対応できうる役割を有していると考えられます。
バルコニー施工	日本エクステリア工業会で生産するバルコニー、カーポート、テラスは日本工業規格製品(JISA6601,6602,6604)で、それらを現場で組み立て、建物に取り付ける工事にバルコニー施工技能士が携わっており、今後とも、バルコニー施工技能士の受験者の確保に努めます。
ガラス施工	<p>後継者育成、若手社員の技能向上のため、また職業訓練校卒業後のさらなる技能向上の指標として技能検定の存在意義は大きい。ただバブル以降景気の低迷が長く、若者の就業人口も減る状況では、技能検定の意義が弱まってきている。費用対効果を考えると建築関係の国家資格(施工管理士など)よりメリットも少なく、知名度も低い。技能検定合格者に対する経済的な優遇措置(公共事業の入札条件にするなど)や社会的地位向上のためにもっと公共のPRが必要だと思う。</p> <p>建築現場に投入されるサッシ取付施工員について、現場責任者は建築物全体の施工品質保持のため、一定数以上1級技能士の確保を求める。一方、サッシ取り付け作業はサッシメーカーによる責任施工の場合が多く、メーカーの信用向上のため、信頼できる技能士を派遣する。</p>

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
ウェルポイント施工	国家試験であるので、元請け企業、あるいは発注者に対して、技術の客観的評価が得られ、信頼性が得られる。
建築図面製作	私たちの職種の現状を鑑みるに、多くの職能者はコンピュータグラフィックスによる製作にシフトしており、現状の技能検定取得者に対する当該業種社会での評価は、微少なものとなっております。しかしながら全く意味をなさないものでもなく、透視図の製作を行う一部の組織では評価基準の中の一つとして考えている例もあります。現在、手書きにより透視図面の製作教育がほとんどなくなった状況下では、以前にも増して本検定取得者の評価を重く見られる可能性がないわけではありません。しかしながら、その需要は僅かかと思われれます。
塗装	鋼橋塗装においては、その技能が所定の品質を確保するためには重要であり、企業として不可欠のものである。従って技能検定は技能啓発に欠かせないものとする。技能検定は雇用促進のために重要と考えられるが、品質の確保という意味で、雇用者だけでなく、発注者ももっと関心を持つような制度にする(アピール)ことを望みます。 ----- 会員企業の従業員の技能レベルの維持・向上にメリットがある。 ----- 1級及び2級技能士は技能者の目標ではありますが、待遇面での差別化になっていませんでメリットが少ない。また昨今は1級技能士の受検年数低下により1級技能士資格の重み付けが軽くなっているし、結果的に2級の受検者が減少している。 ----- 業界としての基盤向上
路面標示施工	この技能検定は、国家試験として認められており、国土交通大臣の認定も受けている。合格者一人につき国土交通省発注の公共工事での評価点(2点)を受けており、また、公安委員会発注の工事では、中にはこの資格が入札条件になっている場合がある。この評価は、「餅は餅屋」と言われるように、標識、標示等の専門性を帯びている公共工事においては、特に当該専門の資格が重要であることの評価の一つとれ公共機関の評価があるということが何よりのメリットである。 交通安全上、路面標示は単に設置すればよいのではなく、「技能・知識」など「職業能力」に裏付けられた路面標示施工技能士の有資格者により設置されるのが望ましいことは明らかであり、最近特に強く叫ばれている良質な仕事をするためにも、専門技能者育成は欠かせないことから、その裏付けである資格検定試験が必要である。 東北地方2県では、県及び市町村の「入札参加資格要件」に「路面標示施工技能士」の保有を格付け要件としている。(現場配置と2名以上保有) 専門工事業としてのスキルアップと品質確保の面から、同技能の取得は欠かせない。 路面標示は、法令に基づき施工することから、技能を有する資格者が望まれる。厚生労働大臣認定の国家資格であり、路面標示・道路区画線工事には欠かせない資格となっている。従って、技能検定を毎年実施することにより広く交通安全に寄与し、技能を有する人にとっては、有資格者となることのできる大きなメリットがあると考えている。 検定用資器材の搬入、標示下地フェルトの敷き込み等の手伝いとして、作業に従事することにより、次期自分が受検の際の参考となる。 当該技能検定者は、管理技術者として例外的に認められるほか、合格者(有資格者)がいなければ、工事の受注ができない要件が見られるなど、当該技能検定の評価は、官民ともに高く、今後も室を維持しつつ引き続き実施していただきたい。 検定職種の「路面標示施工技能士」は、一般建設業(塗装工事業)の有資格者と認定され、現場で活躍している。
広告美術仕上げ	技能の伝承が行われる。加工技術の習得。安全な作業手順の確立と継承。

2 窯業・土石関係

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
陶磁器製造	資格的なもので伝統工芸士があるがこれは地域的なものであり、伝統工芸品に指定されていない地域の人は同じようなものを作る技術があっても伝統工芸士にはなれない。このような場合では技能検定の資格が技術を証明するものとして同等程度に扱われている。小零細企業や個人が多い業種なので統一的な技能の評価に役立つ。

3 金属加工関係

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
金属溶解	安全で効率的な作業の修得 当該産業の技術の進歩に伴い、それに即応しうる技能者を養成し、作業者の知識、技能をより向上させるのに有効である。技能検定合格者に対しては、企業内はもちろん、社会的にもこれを公認し、仕事に誇りと愛着を持たせることにも役立つ。ここ数年、中国等から競合品の輸入(安価な)が急増し、業界の収益等を圧迫しているが、これに対処するには品質面での向上がもっとも効果的と言える。 ----- 本技能検定制度を自社の技術・技能伝承作業の一貫として捉えている会社が年々増えている。一方で、現状にマッチした内容で、即現場に生かせる試験内容を希望する会社もあります。

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
鑄造	<p>本技能検定制度を自社の技術・技能伝承作業の一貫として捉えている会社が年々増えている。一方で、現状にマッチした内容で、即現場に生かせる試験内容を希望する会社もあります。</p> <p>昭和 43 年に指定業種となり、十数年間は毎年 200 名前後の受験者で充ちておりました。昭和 50 年代後半から 60 年代に受験者が減少し、3 年ごとの指定となってしまった。指定としての存在価値は、業界として(重要な産業として認知された等)企業として(技術の向上・従業員同士の研摩・対外的に信用の増等)ともそのメリットは多大である。</p>
鍛造	技術・技能の伝承、社員育成の一環として本制度を位置づけている。
金属熱処理	金属熱処理、及び一般熱処理、浸炭・浸炭窒化・窒化処理、高周波・炎熱処理作業は、自動車の製造において欠かせない重要な部品を製作するものであり、同職種の技能検定が存在することにより、日本の基幹産業である自動車産業ひいては我が国の“ものづくり”を支えている大勢の技能者にとって、当技能検定の受検に際し専門的な知識、技能が身に付き、合格すれば自他評価を享受することができ、ひいては、日本の“ものづくり”の活性化にもつながるものと認識しております。
粉末冶金	我が国の重要な産業として公的に認められていることで会員の雇用に役立っている。会員において現場技能者の技能レベルの目標として活用できる。技能検定があることで粉末冶金の根本的な知識、理論を現場技能者が広く学ぶきっかけとなっている。公開される問題を社内の人材教育にも活用できる。
機械加工	<p>当業界の生産製品である研削砥石は、工作機械に取り付けられて使用されるが、工作機械の適正な使用がされない場合には、破損等の事故が考えられる。研削砥石をつけた機械、工具類の使用の検定は、これら事故の防止に役立つ。</p> <p>団体傘下の各企業においてキャリアアップが図られ従業員に関しては努力目標としての効果がある。また、汎用彫刻加工手彫り加工法が NC 彫刻加工法の比率が高くなり重要な位置を占める。このことから NC 彫刻加工検定の設立を求める声もある。技能者道標の技能検定は必要である。</p> <p>昨今企業は「ものづくり」を強化する動きがあり、技能継承の必要性という観点からも、現在のものづくりにおける要素技術を盛り込む形で存続させるべき(受験者数の多寡にかかわらず)</p> <p>精密光学産業にとって、「機械加工」職種は重要な基礎技能であり、この技能検定が存在していることは、関係従業員の基礎技能を高める上での大きな動機付けとなっていると考える。また、会社として関係技能者の能力を評価する際の一つの重要な目安として利用できると考える。</p> <p>業界における技能者育成に役立つ。</p> <p>機械加工職種、及び付随する数値制御旋盤作業、フライス盤作業、ホブ盤作業は、自動車の製造において欠かせない重要な部品を製作するものであり、同職種の技能検定が存在することにより、日本の基幹産業である自動車産業ひいては我が国の“ものづくり”を支えている大勢の技能者にとって、当技能検定の受検に際し専門的な知識、技能が身に付き、合格すれば自他評価を享受することができ、ひいては、日本の“ものづくり”の活性化にもつながるものと認識しております。</p>
放電加工	業界における技能者育成に役立つ。
金型製作	<p>当団体の加入団体である協会は、プラスチック製造企業を構成員としているため、プラスチックに関する検定職種は人材育成をはじめ、技術向上に役立っている。</p> <p>会員企業の従業員の専門的な知識、技能が身に付き、それが会員企業の発展につながる。</p>
金属プレス加工	会員企業の従業員の専門的な知識、技能が身に付き、それが会員企業の発展につながる。
鉄工	公的な基準により能力評価ができる。
工場板金	工場板金職種、及び付随する打出し板金作業、曲げ板金作業、機械板金作業は、自動車の製造において欠かせない重要な部品を製作するものであり、同職種の技能検定が存在することにより、日本の基幹産業である自動車産業ひいては我が国の“ものづくり”を支えている大勢の技能者にとって、当技能検定の受検に際し専門的な知識、技能が身に付き、合格すれば自他評価を享受することができ、ひいては、日本の“ものづくり”の活性化にもつながるものと認識しております。
めっき	溶融亜鉛めっきは従前から幾多のインフラを錆から守るという大きな使命を担い、それに応えてきています。これからもこの業種は省資源、省エネルギー、地球環境の保全という観点からもますます重要になってくると考えられます。このような溶融亜鉛めっきの業種における技能士の存在は、溶融亜鉛めっきの技術をより確かなものにし、かつ、顧客からの信頼・信用に大きく寄与するメリットがあると考えています。

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
溶射	マイナーな「溶射技術」の普及、発展。JIS、安全衛生に準拠した標準作業の普及。溶射技能者の育成。溶射皮膜の品質向上。
金属ばね製造	目標を与えることにより専門性に対する従業員の意欲が高まる。従業員の職業能力を判定する評価基準となる。社内における技能継承が出来る。対外的にアピールできる。
仕上げ	<p>昨今企業は「ものづくり」を強化する動きがあり、技能継承の必要性という観点からも、現在のものづくりにおける要素技術を盛り込む形で存続させるべき(受検者数の多寡にかかわらず)</p> <p>-----</p> <p>会員企業の従業員の専門的な知識、技能が身に付き、それが会員企業の発展につながる。</p>
金属研磨仕上げ	研磨の高度化。製品の高級化。人材の確保・受注の増加または受注の減少防止。研磨の多角化。
切削工具研削	<p>多様化する技術及び設備の中で研削技術知識の原点となる職種で必要不可欠である。</p> <p>-----</p> <p>木工機械に欠かせない工具に関する技能検定であり、それを活用・利用する当組合員にとって高度な技術を持った取引先が必要。</p>
製材のこ目立て	<p>製材作業において、作業効率、安全性の面からのこ目立て技術は重要である。経験によるところが大きい技術ではあるが、一般に認識が低く、技能検定の職種として認定されている意義は大きい。目立て技術者が減少する現状において、技術の伝承の点からも必要である。</p> <p>-----</p> <p>「製材のこ目立て」は、製材加工の生産性、労働安全に大きく影響するので、この技能習得、検定は重要。従って、業界全体としては目立て技能者の育成確保は大きなメリットあり。</p>
ダイカスト	人材育成とダイカスト製造企業の技術水準の向上
金属材料試験	<p>業界における技能者育成に役立つ。</p> <p>-----</p> <p>当工業会は「金属材料試験」を行う試験機の製造メーカーの集まりである。主として本技能検定は当工業会のユーザーが受検されることが多く、本技能検定が存在することにより、正しい試験方法が推進され、ものづくりのための基本データより正確に採取されることとなる。金属材料試験は我が国の産業発展のベースを作るものであり、技能検定合格を目指しこの分野に携わる人の拡大が重要である。当工業会とすればユーザーが拡大することにつながり大変ありがたいです。</p> <p>-----</p> <p>技術・技能の伝承、社員育成の一環として本制度を位置づけている。</p>

4 一般機械器具関係

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
機械検査	業界における技能者育成に役立つ。
産業車両整備	<p>建設機械整備の技能検定合格者は特定自主検査の検査業の資格を取得するための研修講習時間が不要であり、産業車両整備についても、フォークリフトの検査業の資格を取得するための研修講習時間短縮を早期実現のため、合格者を増加していく。ぜひ早急にお願います。</p> <p>-----</p> <p>業界の社会的地位の向上に寄与している。なお、当協会は産業車両のうち主にフォークリフトメーカーの団体である。このメーカー系列にフォークリフト販売店が多くあり、これらをまとめている団体に日本フォークリフト販売協会がある。フォークリフト業界として産業車両整備職種に関し試験問題作成委員(技能検定委員会)9名中8名を当協会から派遣して、学科試験問題の作成、実技試験問題の見直し、その他運営上の問題点の是正等についても合わせ検討している。</p>
鉄道車両製造・整備	公正な第三者機関の技能検定であることに価値がある(対外的な評価)。技能向上の目標となる(動機付けとなる)。
内燃機関組立て	<p>内燃機関組立て職種、及びこれに付随する量産型内燃機関組立て作業は、自動車の製造において欠かせない重要な部品を製作するものであり、同職種の技能検定が存在することにより、日本の基幹産業である自動車産業ひいては我が国の「ものづくり」を支えている大勢の技能者にとって、当技能検定の受検に際し専門的な知識、技能が身に付き、合格すれば自他評価を享受することができ、ひいては、日本の「ものづくり」の活性化にもつながるものと認識しております。</p>

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
縫製機械整備	販売後の技術サービスが重要な要素となる業種である当工業会会員企業にとって、技能検定試験制度はぜひ存続させていただきたい制度である。業界スタンダードとしてもオーソライズされており、メリットとしては大いにあると言える。
建設機械整備	<p>私どもは労働安全衛生法第45条第2項に基づく特定自主検査の普及促進を推進しております。建設機械整備技能士は車両系建設機械に係る特定自主検査の検査者資格との関連づけがなされ、1級及び2級の試験科目にも特定自主検査は含まれていますので、特定自主検査制度の普及促進に役立っていると考えています。また、本アンケートには直接関係はありませんが、同様な考えで、産業車両整備技能士についてフォークリフト特定自主検査の検査者資格との関連づけを希望しております。</p> <p>当協会は、名称通り建設機械のレンタルを業としている者の組織する団体である。団体機能は零細であり独自に講習会を開催するほどの能力がない状況であるが、貴省の実施される国家資格の建設機械整備技能士は法規対応上必要である。従って貴省が指定されている職業能力開発協会が実施される技能検定に頼るしかなく、指定されている協会が、他の団体に再委託され、再委託された団体が会員を対象とするため、外部者の受検が困難である。受託者の機能強化を図るか、企業責任に変更し制度の廃止を検討してほしい。(メーカーによる講習会で対応できないのか)</p>
農業機械整備	<p>農業機械修理の現場では、3Kの職場(きつい、汚い、危険)と言われ、しかし、一方で電子、油圧制御といった自動化が進み、高度な知識が求められる中、「国家検定」の資格が得られることは現場で働く人にとって大きな励みとなっていると思われれます。また、業界挙げて、ユーザー側の農家に向けて「農業機械整備技能士」の対外的なPR活動を行っているが認知度が低い。末端会員からは就業制限的なメリットを求める声が高い。</p> <p>職場内教育(OJT)とともに資格取得のための自己研鑽することが重要であり、技術向上につながる。資格を持った従業員が農機の修理整備を担当することで、農家の信頼を得られる。</p>
木工機械整備	<p>木工機械販売企業、ユーザー企業の従業員の技術向上、安全性等への意識向上に役立っている。</p> <p>木工機械整備(木工機械調整作業)-何年も実施していない。木工機械整備(木工機械修理作業)-隔年かならず実施している。組合にとって重要事業。活性化・技能向上等に絶大な効果。</p>
機械・プラント製図	技術者の能力向上、意欲の向上

5 電気・精密機械器具関係

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
電子回路接続	昨今企業は「ものづくり」を強化する動きがあり、技能継承の必要性という観点からも、現在のものづくりにおける要素技術を盛り込む形で存続させるべき(受験者数の多寡にかかわらず)
電気機器組立て	昨今企業は「ものづくり」を強化する動きがあり、技能継承の必要性という観点からも、現在のものづくりにおける要素技術を盛り込む形で存続させるべき(受験者数の多寡にかかわらず)
プリント配線板製造	業界及び受験者の地位向上、ステイタスにつながる。技能検定の合格者を要する企業は、顧客に対し、製品の信頼性向上につながり合格者は、社会的地位向上につながるほか、働く人々の目標にもなっている。
自動販売機調整	<p>関係者のスキルアップ。社内でのステータスアップ。</p> <p>会員の技術向上により業界発展、地位の向上となる。会員数の増加。会員の対外的地位の向上。</p>
光学機器製造	「光学機器製造職種」として、現在「光学機器組立て作業」及び「光学ガラス研磨作業」の技能検定がある。精密光学産業にとってこれらの作業は専門基礎技能であり、これらの技能検定が存在していることは、関係技能者の専門技能を高める上で大きな動機付けとなっていると考える。また、会社として関係技能者の能力を評価する際の一つの重要な目安として利用できると考える。
電気製図	昨今企業は「ものづくり」を強化する動きがあり、技能継承の必要性という観点からも、現在のものづくりにおける要素技術を盛り込む形で存続させるべき(受験者数の多寡にかかわらず)

6 食料品関係

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
パン製造	製パン技能の向上と継承 製パン業界全体のレベルアップと若手技術者の良い目標となっている。 検定を通して技術が向上、製品知識力の向上に磨きをかけ、製品品質の安定化に努められる。専門職として人間的にも責任感を持てるようになる。それが食の安全、安心にもつながっていくと思う。
菓子製造	就業者の向上意欲喚起に役立つ。技術の向上に役立つ。残念ながら地位向上には貢献していない。
製麺	製めん業界全体のレベルアップと若手技術者の良い目標となっている。 伝統食品としての製麺技術の継続・継承。製麺技能の向上。学習の励行。社会的地位の向上。製麺業への意欲の掘り起こし。
ハム・ソーセージ・ベーコン製造	仕事に対する動機付けの維持向上
水産練り製品製造	伝統技術の継承、社員に向上心を持たせる。能力評価(客観的)。優良企業としての差別化。企業イメージの向上。
みそ製造	従業員教育の一環であり、昇格・昇給の判断の目安としている企業が多い。
酒造	従業員の技能を客観的に把握できる。

7 衣服・繊維製品関係

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
染色	国の認定事業として、技能者の社会的地位の向上と技能修得の目標として、励みになる。企業の対外的信用度の向上。 若い人は職業のレベルを検定で確かめようとしています。ほかに評価する者がいない1級取得すれば看板になるとしています。最近では組合外の受験者が多くなり、もし希望者が増えれば1級2級を別々の日にすることも考えています。1級20名2級20名位を次回は考えています(東京の場合)。 日本人向けについては、昨年・今年の実施なので、未だ成果は現れていない。今後定着して、企業内での評価が定まれば、人材教育の一環となると見ている。 職業訓練校、工業高校等がなくなったため、幅広い知識・標準作業の修得の場として役立つ。有資格者が技能者として誇りを持つ。また本人自身が自分の能力・レベルを自覚する。 従業員の専門知識の向上。外国人研修・技能実習制度の活用による労働者の確保。
ニット製品製造	組合員(企業)の人材育成並びに品質・技術の改善向上に、技能検定試験は従業員の教育及び励みとなる。
婦人子供服製造	技能技術は個人に帰属するものである。社内的評価にもよるが、給与に反映される場合、または役職を得る場合、さらには再就職をする場合の有利性等々が考えられる。 検定を行うことにより、オーダーにこだわる訳ではないけれど、手仕事の技能の継承、オーダーの良さを後進に伝えていかなければいけない。プロの育成に誇りを持っている。 技能技術の継承は一日でできない。長時間継続して育成することにある。その評価として技能検定がある。高技能高技術の製品作りの尺度として、技能検定がある。業界全体として服作りに関心を持ってもらうために、学校教育の段階から教育していく。その延長線に技能検定がある。外国人研修生の技能技術向上のため、国際貢献のため、技能検定がある。 当業界においては生き残り戦略として高技術高技能に培われた製品作りが求められている。このことを取引先、消費者が認めることで発展性があると思われる。そのための評価として、技能検定がある。本来であれば1級建築士の称号のように、世間が認知してくれるといいのだが、多種多様な製品(商品)が氾濫している現状ではどうにもならない。また、海外製品との差別化を図るためにも、技能継承は必要である。外国人研修生の5年延長の議論もあり、その時は2級検定が義務化になるだろう。
和裁	検定合格を目標に掲げることによって、技能習得に対して意欲が出る。対外的にも技術の明確な判断基準になるし、こういう技術があるという存在を知ってもらおう一助になる。技能継承に役立つ。

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
寝具製作	<p>一定の技能を有する技能士が商品を生産していることを顧客にアピールすることにより単に技能だけでなく知識をも兼ね備えていることで、一般消費者に対して、安心と信頼を持っていただくことができる。</p> <p>技能検定合格者が製作する商品に対し、消費者からの信頼が厚く、社会的に見ても有意義のある制度であります。また、生活必需品として消費者に喜ばれる商品を、高度な技能により製作してお渡すことが、一般消費者に対しての誇りでもあり、日本独自の布団製作は我が国の伝統文化であり、後世に伝えるためにも優れた技能を有資格者が多くなる必要があります。よってメリットは大であると考えています。</p>
布はく縫製	「高度技能の継承」「技能者の意欲向上」「製品品質の維持・向上」等による業界(職種)及び組合員企業の繁栄。

8 木材・木製品・紙加工品関係

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
機械木工	<p>木工機械販売企業、ユーザー企業の従業員の技術向上、安全性等への意識向上に役立っている。</p> <p>機械木工(数値制御ルータ作業)は、木工機械メーカーにとって必要な職種であり、当組合にとっても少なからず重要である。検定委員は中央に派遣しているが当組合では試験はここ10年行っていない。</p>
木型製作	<p>木型製作職種及び同職種に付随する模型製作作業は、自動車の製造において欠かせない重要な部品を製作するものであり、同職種の技能検定が存在することにより、日本の基幹産業である自動車産業ひいては我が国の“ものづくり”を支えている大勢の技能者にとって、当技能検定の受検に際し専門的な知識、技能が身に付き、合格すれば自他評価を享受することができ、ひいては、日本の“ものづくり”の活性化にもつながるものと認識しております。</p> <p>機械化・コンピュータ化が進む中、習得に時間と修練のいる基礎技術・技能はおろそかになりがちである。しかし基礎技能の向上と伝承に務める業界においては技能検定の実施は若年木型技能者の養成と就業意欲の向上という面でも必要不可欠である。木型職種が国家検定に存在することにより、業界及び職種として一般に周知されることにつながる。</p>
家具製作	技能検定を行うことで職業の知名度も上がり、団体のまとまりも良くなる。個人的には目標を持てることと技能の向上にも役立っている。
建具製作	参加者の技能向上に対する意識。後継者への技能伝承。
竹工芸	客観的に評価された制作者による作品が消費者に評価されるのは当然であり、そのためにはこの技能検定はきわめて重要であり、これによって生活が保障されるとまで言えよう。
紙器・段ボール箱製造	紙器段ボール箱製造業の各企業の従業員育成の一環として、技能検定試験を奨励し、受検することにより専門的な知識や技能の習得を促し、社内技術の向上に寄与し、業界全体の人材育成においてレベルアップにつながる大きなメリットがあると考えます。

9 プラスチック製品関係

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
プラスチック成形	<p>当団体の加入団体である協会は、プラスチック製造企業を構成員としているため、プラスチックに関する検定職種は人材育成をはじめ、技術向上に役立っている。</p> <p>企業の社員教育として役立つ。従業員の意識の向上が図れる。企業によっては給与体系に組み入れているところもあり、いわゆる社員のやる気につながる。</p> <p>従業員に基礎・専門技術が身に付く。従業員の技術向上の目安になる。対外的なアピール。</p>
強化プラスチック成形	<p>大手企業では、合格者(1, 2級とも)主任、係長、課長等への昇進の判定要素に利用しているようで受検者から情報を得ている。中小企業では、発注者から技能検定(1, 2級含め)取得者の数を確認されることが多く、資格取得者の以内場合は受検を強く要望されるようです。FRP成型品の品質を判定するための目安にしているようです。</p> <p>コンクリート防食業界における技能の継承、施工品質・管理水準の向上に寄与している。特に、公的には下水道施設の防食管理専門技術者の認定基準となっている。</p>

10 貴金属・装身具関係

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
時計修理	本人の技能水準を客観的に知ることができる。全国一律の水準における試験であるので、一定の資格を得るための目標となる。資格として国家検定であることが、励みになる。
貴金属装身具製作	技能・技術によって作られる製品なので、技能及び技能者の確保教育に対する熱意。海外との技術力の比較。

11 印刷製本関係

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
製版	業界の技能レベル、スキルアップ

12 その他

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
園芸装飾	園芸装飾に関する標準的技術水準の確保が可能となる。国家検定試験の資格取得を目指して技能の向上が図られる。自信と誇りを持って技能の継承ができる。
ロープ加工	ワイヤロープはいろいろな分野で使用されており、必ず端末加工が必要であるが、もし、この加工が適切に行われていないと大きな事故や災害が発生するおそれがある。技能検定では、ロープ、その加工、関連法規など幅広い知識や技能を習得するようにしているので、技能士が加工した製品は信頼されて使用されている。ロープ加工の技能検定は、優れた技術者の養成を行い、個人の能力向上、企業での製品の品質向上・技能継承・取引などに役立ち、労働安全のためにも不可欠なものと考えています。 ワイヤロープは、産業分野のみならず、スポーツ、レジャー等、国民生活に広く使用されている重要部材で、万一事故が発生した場合、人命に係る災害となる。ワイヤロープの最終工程には、端末加工が必要で、この加工を施さなければ使用できない製品である。この加工を行う職種が「ロープ加工職種」で、加工を行う者は、ワイヤロープ及びその法規に関する幅広い知識と加工技術が要求される。技能検定は、これらの資格の有無を判断するもので、ロープ加工技能士の加工した製品は、安全に使用できるとの信頼の元に使用されるシステムが、今や我が国の社会通念である。
印章彫刻	社会構造の変化とともに、押印の場が減少していくことは認めるところではありますが、印鑑登録証明制度は明治以来、日本国民に深く根付き、本人確認と本人の意思表示の証として、今後も長くその役目を果たしていくものと思っています。本人確認の正確さ、偽造印作成の困難さ、機械彫りの一部同業者との差別化、唯一無二の印章を彫刻等、消費者に納得と安心をしていただくために、技術の研鑽と伝承を守るためにも、技能検定制度は重要かつ必要なものだと考えております。
塗料調色	現場では、塗料調色の業務はコンピュータでの作業がほとんどであるが、微妙な色合わせなどは調色の経験センスが求められる。色合わせの基本となる当検定の技能は塗料販売業として欠かせない。最近では業界以外の塗料メーカー、塗装業者、大手機械メーカーの社員の受検割合が増加しているが、再度組合としても組合員に対してその認識を徹底させたい。
義肢・装具製作	義肢装具製作という特殊で、かつ一般に認識されづらい職種、そのものの存在をアピールできる。業界内における技術力の維持、底上げが図れ、その重要性を認識することで、ユーザーに対しサービスの向上、品質の安定化等が期待できる。職業訓練事業に関しては、訓練生の将来目標の一つとなるため、技術習得に対する動機付け、訓練意欲向上のきっかけとなり得る。 技術の向上
舞台機構調整	会館・ホールにおいて指定管理者制度が導入され、広く演出空間での技術を公に認定した唯一の試験であること。
工業包装	梱包企業にとり、公的な工業包装技能資格認定証の所持者を抱えることは、その企業の営業活動上、非常に有効な武器となっている。また、梱包を依頼する顧客側から見て、自社製品を梱包してもらうに際し、良質かつ合理的設計をされた安全な信頼できる対応を期待できるという「安心」を提供するものである。また、梱包業界にとり、梱包技能を高め、継承することができ、業界発展に多大な貢献をしている。 協会活動の中で人材育成がもっとも大きな事業となっています。特に現場サイドの意識を高めるために、資格が大きな役割を占めていると考えられます。社会的にも専門家として認識されることにより、さらなる技術向上にもつながっていきます。

技能検定職種	関係職種が技能検定として存在するメリット
写真	<p>営業写真業界として写真感光材料事業の維持・継続に寄与。他営業写真団体との協力体制の強化と方向性の統一。当工業会及びメーカーとしての立場、知見を検定に反映。</p> <p>従業員の教育訓練を行うに当たり、レベルアップに大いに役立っている。</p> <p>社会的信用が得られる。技術の習得を客観的に評価できる。本人及び組合内にやる気を喚起する。</p> <p>担当業務に関する専門的な知識、技能が身に付く。目標を与えることにより専門性に対する従業員の意欲が高まる。社内における技能継承ができる。</p>
産業洗浄	<p>当協会では、産業洗浄に係る技能者の安全と技能の向上を目的に活動を行っています。高圧洗浄作業は、取り扱いを誤ると危険性の高い作業です。ある一定の技能を修得した者が作業することにより、危険性も少なくなり、安全作業につながると考えています。法律で制定された技能検定を介し、産業洗浄に係る技能者が技能及び知識の向上を図ることを目標としております。</p>
商品装飾展示	<p>公的資格である「商品装飾展示」技能検定を通じて業界内外において職域の認知度を高め、同時にそれが業界プロフェッショナルたちの技能と技術のレベルアップにつながる。技能検定実施に支援協力することで、VMDに関わる技術・技能の伝承及び能力開発・人材教育につながる。</p>
フラワー装飾	<p>3級は専門学校(資格産業)などにはメリットがあると思いますが、花卉業界にとってはあまり関係のないことです。強いてあげれば、訓練・経験上培われた知識・技能を活かし有資格者として説得力のある生活造形の重要性を社会に示す最前線にいと、いった気持ちによるところが大きい。</p>

(別紙 2) 受検予定または受検したことのある他職種 of 技能検定または他の資格試験

1 建設関係

技能検定職種	技能検定の他職種	他の資格試験
造園	園芸装飾、配管	日本漢字能力検定、施工管理技術検定、街路樹剪定士認定試験、調理師免許試験、浄化槽設備士試験、下水道排水設備工事責任技術者試験、危険物取扱者試験、エクステリアプランナー、建設機械施工技術検定試験
建築板金		施工管理技術検定
石材施工		実用英語技能検定、施工管理技術検定
とび	建築大工	施工管理技術検定
左官	タイル張り、ブロック建築、建築大工	施工管理技術検定、カラーコーディネーター検定試験
ブロック建築	建築大工	
タイル張り	浴槽設備施工、れんが積み	色彩検定、調理師免許試験
樹脂接着剤注入施工	防水施工、塗装、家具製作	施工管理技術検定、情報処理技術者試験
内装仕上げ施工	表装	
熱絶縁施工	建築板金	
サッシ施工	ガラス施工、カーテンウォール施工	建築士試験、施工管理技術検定
塗装	左官、防水施工、塗装、配管、建設機械整備	施工管理技術検定、建築士試験、危険物取扱者試験、溶接技能者評価試験、宅地建物取引主任者資格試験、自動車整備士技能検定試験
路面標示施工	塗装	建設業経理士検定試験、施工管理技術検定

2 窯業・土石関係

(該当なし)

3 金属加工関係

技能検定職種	技能検定の他職種	他の資格試験
鑄造	機械検査、仕上げ	自動車整備士技能検定試験、情報処理技術者試験、計算技術検定、基礎製図検定
金属熱処理	機械保全、機械加工、機械検査、金属材料試験、仕上げ	高圧ガス製造保安責任者試験、危険物取扱者試験、消防設備士試験、X線作業主任者免許試験、衛生管理者免許試験、自動車整備士技能検定試験、珠算能力検定試験、電気工事士試験、ボイラー技士免許試験、情報処理技術者試験、日商簿記検定、電気主任技術者試験、エネルギー管理士国家試験、品質管理検定
粉末冶金	金属熱処理	危険物取扱者試験、高圧ガス製造保安責任者試験
機械加工	切削工具研削、機械検査、機械保全、仕上げ、金属プレス加工、電子機器組立て、テクニカルイラストレーション、放電加工、金属熱処理、金型製作、プラスチック成形、機械製図、	危険物取扱者試験、クレーン運転士免許、品質管理検定、ガス溶接作業主任者免許試験、ボイラー技士免許試験、CADトレース技能審査、電気工事士試験、日本漢字能力検定、情報処理技術者試験、計算技術検定、基礎製図検定、情報検定、パソコン検定試験
放電加工	機械加工、機械保全、仕上げ、空気圧装置組立て、機械検査、金型製作、プラスチック成形、金属プレス加工、金属熱処理、電子機器組立て、機械・プラント製図	日本漢字能力検定、自主保全士検定試験、危険物取扱者試験
金属プレス加工	機械加工	
鉄工		施工管理技術検定
工場板金		危険物取扱者試験、自主保全士検定試験

技能検定職種	技能検定の他職種	他の資格試験
仕上げ	機械検査、機械保全、プラスチック成形、機械加工、工場板金、電子機器組立て、仕上げ、空気圧装置組立て、時計修理、電気機器組立て、放電加工、油圧装置調整、金属プレス加工、機械製図、電子回路接続、光学機器組立て、金属熱処理	危険物取扱者試験、高圧ガス製造保安責任者試験、情報処理技術者試験、工事担任者試験、実用英語技能検定、自主保全士検定試験、電気主任技術者試験、ビジネスキャリア検定試験、施工管理技術検定、日商簿記検定、電気工事士試験、TOEIC、自動車整備士技能検定試験、技術士試験
切削工具研削		ボイラー技士免許試験、危険物取扱者試験、電気工事士試験
ダイカスト	機械保全、テクニカルイラストレーション、機械検査	X線作業主任者免許試験、危険物取扱者試験

4 一般機械器具関係

技能検定職種	技能検定の他職種	他の資格試験
機械保全	機械加工、機械検査、ハム・ソーセージ・ベーコン製造	品質管理検定、危険物取扱者試験、ボイラー技士免許試験、衛生管理者免許試験、調理師免許試験
産業車両整備	建設機械整備	
鉄道車両製造・整備	機械保全、配管	高圧ガス製造保安責任者試験、危険物取扱者試験
建設機械整備	油圧装置調整	中古車査定士試験、溶接技能者評価試験、ボイラー溶接士免許試験、自動車整備士技能検定試験、電気主任技術者試験、電気工事士試験、工事担任者試験、危険物取扱者試験

5 電気・精密機械器具関係

技能検定職種	技能検定の他職種	他の資格試験
電子機器組立て	電気機器組立て、電子回路接続、機械保全、機械検査、機械加工、空気圧装置組立て	電気工事士試験、情報処理技術者試験、電気主任技術者試験、危険物取扱者試験
電気機器組立て	電気製図、電子機器組立て、鉄工、機械保全、油圧装置調整、機械検査、機械加工、めっき、仕上げ、金属熱処理、冷凍空気調和機器施工、配管	電気工事士試験、危険物取扱者試験、電気主任技術者試験、ボイラー技士免許試験、自主保全士検定試験、高圧ガス製造保安責任者試験、施工管理技術検定、基礎製図検定、デジタル技術検定試験、情報処理技術者試験
光学機器製造		危険物取扱者試験、品質管理検定

6 食料品関係

(該当なし)

7 衣服・繊維製品関係

(該当なし)

8 木材・木製品・紙加工品関係

技能検定職種	技能検定の他職種	他の資格試験
家具製作	建具製作、建築図面製作	自動車整備士技能検定試験、建築士試験
畳製作		品質管理検定
表装	内装仕上げ施工、寝具製作、	施工管理技術検定、自動車整備士技能検定試験

9 プラスチック製品関係

技能検定職種	技能検定の他職種	他の資格試験
プラスチック成形、	機械保全、めっき	ビジネスキャリア検定試験

10 貴金属・装身具関係

(該当なし)

11 印刷製本関係

技能検定職種	技能検定の他職種	他の資格試験
印刷	製版	DTP エキスパート認証試験、危険物取扱者試験、電気工事士試験、毒物劇物取扱責任者

12 その他

技能検定職種	技能検定の他職種	他の資格試験
園芸装飾	造園、フラワー装飾	施工管理技術検定、グリーンマスター認定試験、環境社会検定試験、色彩検定、ボイラー技士免許試験
産業洗淨		公害防止管理者等国家試験
フラワー装飾	園芸装飾、造園	フラワーデザイナー資格検定試験、施工管理技術検定、日本語ワープロ検定試験、手話技能検定試験

団体名		支部数	
記入担当者名		電話番号	()
会員数		傘下企業に属する 総従業員数	約 人

_____ 職種の技能検定について、次の問にお答えください。

※ 問1～問3については、該当するものをご記入下さい。もし、全国の状況について把握されていないようでしたら、貴団体の支部の代表的な1例についてお調べ頂き、ご記入いただきますようお願いいたします。

問1 貴団体、または貴団体の支部は、実技試験の実施に協力していますか。

- | | |
|--------------------------------------|---------|
| <input type="checkbox"/> 1 協力している。 | → 下記問2へ |
| <input type="checkbox"/> 2 協力はしていない。 | → 下記問4へ |

問2 貴団体、または貴団体の支部が、実技試験の実施に協力している内容について、該当するものすべてにチェックを入れてください。

- | |
|-----------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 検定委員を派遣している。 |
| <input type="checkbox"/> 2 補助員を派遣している |
| <input type="checkbox"/> 3 試験のための会場・設備の貸与又は便宜供与 |
| <input type="checkbox"/> 4 試験のための材料の貸与又は便宜供与 |
| <input type="checkbox"/> 5 試験準備・片付けを行っている。 |
| <input type="checkbox"/> 6 試験の架台を預かって保管している。 |
| <input type="checkbox"/> 7 その他（具体的にお書きください。）
() |

問3 貴団体、または貴団体支部が、実技試験実施の協力にご負担された費用（年間）について、その金額を教えてください（問2の項目を金額に換算することが可能であれば、その金額も加算してください）。

- | | |
|-----------------------------------------|-----------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 貴団体（本部と支部全体） | <input type="checkbox"/> 2 貴団体支部の1例（または支部の平均） |
|-----------------------------------------|-----------------------------------------------|

※ 上記でチェックを入れた項目におけるご負担額をお選び下さい。

- | | |
|----------------------------------------------|------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 1円以上 ～ 10万円未満 | <input type="checkbox"/> 7 300万円以上 ～ 500万円未満 |
| <input type="checkbox"/> 2 10万円以上 ～ 30万円未満 | <input type="checkbox"/> 8 500万円以上 ～ 700万円未満 |
| <input type="checkbox"/> 3 30万円以上 ～ 50万円未満 | <input type="checkbox"/> 9 700万円以上 ～ 1,000万円未満 |
| <input type="checkbox"/> 4 50万円以上 ～ 70万円未満 | <input type="checkbox"/> 10 1,000万円以上（約 万円） |
| <input type="checkbox"/> 5 70万円以上 ～ 100万円未満 | <input type="checkbox"/> 11 特になし |
| <input type="checkbox"/> 6 100万円以上 ～ 300万円未満 | |

（注）なお、費用の内訳等の資料があれば添付して下さい。

（裏面の記入もお願いいたします）

問4 貴団体の関係職種が技能検定として存在しているメリットについて、どのように考えているか教えてください。

--

〈貴団体の傘下企業について質問します。〉

※ 問5、6については、傘下企業の平均的と考えられるものをご記入ください。

問5 技能検定を受検（または合格）する従業員等のため、企業が支払ってもよいと考えている費用は、1人当たりどの程度と考えられますか。

※会社で支払っている受検料、受検準備のための講習会等の直接経費ほか受検のための訓練、休暇の付与等の費用も勘案してください。

<input type="checkbox"/> 1 1円以上～5千円未満	<input type="checkbox"/> 4 5万円以上～10万円未満
<input type="checkbox"/> 2 5千円以上～1万円未満	<input type="checkbox"/> 5 10万円以上～
<input type="checkbox"/> 3 1万円以上～5万円未満	<input type="checkbox"/> 6 特になし

問6 従業員が技能検定を受検（または合格）した場合、企業のメリットは何であると考えられますか。該当するものすべてにチェックを入れて下さい。

<input type="checkbox"/> 1 担当業務に関する専門的な知識・技能が身につく。
<input type="checkbox"/> 2 企画・立案能力が身につく。
<input type="checkbox"/> 3 目標を与えることにより専門性に対する従業員の意欲が高まる。
<input type="checkbox"/> 4 従業員の職業能力を判定する評価基準となる。
<input type="checkbox"/> 5 社内における技能継承ができる。
<input type="checkbox"/> 6 対外的にアピールできる。
<input type="checkbox"/> 7 法規対応上、技能検定合格者が必要である。
<input type="checkbox"/> 8 取引上、技能検定合格者が必要である。
<input type="checkbox"/> 9 その他（具体的にお書き下さい。）
<div style="font-size: 4em; font-family: serif;">[]</div>

ご協力ありがとうございました。

問1 年齢と性別を教えてください。

<input type="checkbox"/> 1 男性	<input type="checkbox"/> 2 女性
年齢 : 歳	

問2 どちらにお住まいですか。

(都道府県名)

問3 職業を教えてください。

<input type="checkbox"/> 1 会社員	<input type="checkbox"/> 4 公務員
<input type="checkbox"/> 2 自営業	<input type="checkbox"/> 5 無職
<input type="checkbox"/> 3 学生	<input type="checkbox"/> 6 その他 ()

問4 受検した試験について職種名と等級を教えてください。

職種名 :					
等級 :	<input type="checkbox"/> 特級	<input type="checkbox"/> 1級	<input type="checkbox"/> 2級	<input type="checkbox"/> 3級	<input type="checkbox"/> 単一等級

問5 受検した動機について、該当するものにチェックを入れてください。

<input type="checkbox"/> 1 自分の意思で受検した。
<input type="checkbox"/> 2 勤務先の勧めで受検した。

問6 受検に掛かった費用はどのようなものがありますか。該当するものすべてにチェックを入れてください。また、費用の負担方法についても該当するものにチェックを入れてください。

項目	費用の負担方法		
<input type="checkbox"/> 1 受検料	<input type="checkbox"/> 自費	<input type="checkbox"/> 会社負担	<input type="checkbox"/> 自費と会社負担
<input type="checkbox"/> 2 受検のための旅費	<input type="checkbox"/> 自費	<input type="checkbox"/> 会社負担	<input type="checkbox"/> 自費と会社負担
<input type="checkbox"/> 3 受検のための休暇の取得	<input type="checkbox"/> 有給休暇	<input type="checkbox"/> 有給休暇以外	
<input type="checkbox"/> 4 受検準備のための講習会	<input type="checkbox"/> 自費	<input type="checkbox"/> 会社負担	<input type="checkbox"/> 自費と会社負担
<input type="checkbox"/> 5 受検準備のための材料費	<input type="checkbox"/> 自費	<input type="checkbox"/> 会社負担	<input type="checkbox"/> 自費と会社負担
<input type="checkbox"/> 6 その他 (具体的にお書きください。)	()		

問7 問6でチェックした項目(受検料・休暇以外)について、受検のために掛かった費用(会社が負担した費用を含む)は、いくら程度と考えていますか。

1 受検のための旅費	約	円
2 受検準備のための講習会	約	円
3 受検準備のための材料費	約	円
4 その他	約	円

(裏面の記入もお願いいたします。)

問8 受検と合格のメリットは、どのようなものがあると思いますか。該当するものすべてにチェックを入れてください。なお、1及び2に該当する場合には、金額も記入してください。

<input type="checkbox"/> 1 資格手当の取得 (1ヶ月当たり	円)
<input type="checkbox"/> 2 一時金の取得 (円)
<input type="checkbox"/> 3 昇進や昇格に有利	
<input type="checkbox"/> 4 就職・転職が有利	
<input type="checkbox"/> 5 技能をアピールできる	
<input type="checkbox"/> 6 取引上の必要	
<input type="checkbox"/> 7 その他(具体的にお書きください)	
()	

問9 今回受検された職種以外に技能検定の職種を受検する予定、または、受検したことがありますか。ありましたら、職種名を教えてください。

--

問10 仕事の関係で、技能検定制度以外の資格試験を受験したこと、または受検の予定がありますか。ありましたら、資格試験名を教えてください。

--

問11 技能検定制度をよりよいものとするために、どのような事が必要と考えられますか。ご意見がありましたらお願いします。

--

ご協力ありがとうございました。